

大栄環境株式会社 和泉エネルギープラザ整備事業 環境影響評価準備書説明会



資源に変えるチカラ、自然に還すチカラ。

大栄環境グループ

2023年12月13日

大栄環境株式会社 和泉リサイクルセンター

本日の説明内容について

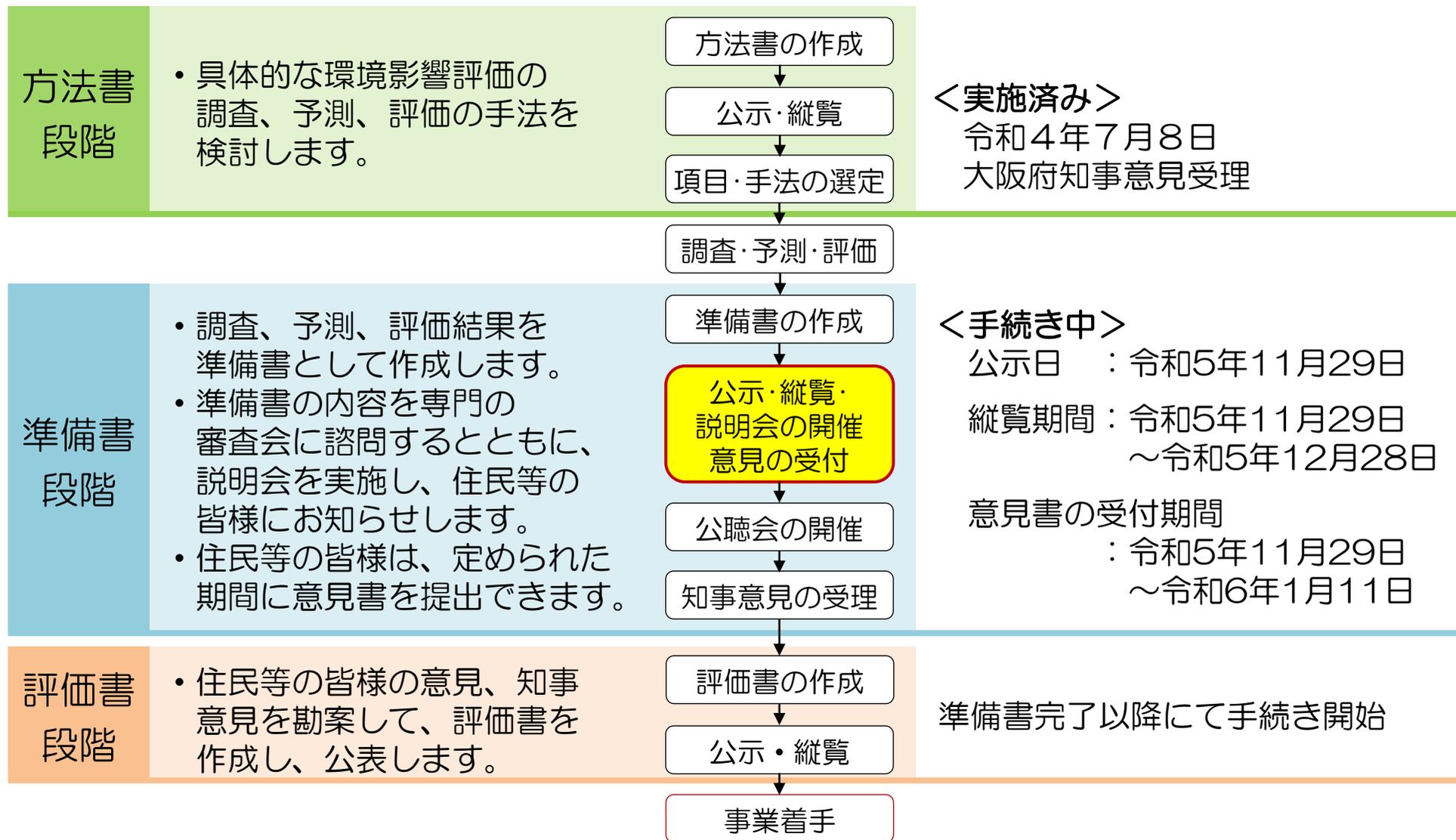
1. 環境影響評価の手続きについて
2. 対象事業の目的
3. 対象事業の内容
4. 環境影響評価結果について
5. 準備書の縦覧・意見書の提出について

1. 環境影響評価の手続きについて

■環境影響評価（環境アセスメント）とは

環境影響評価(環境アセスメント)は、開発事業を行う場合、それが周辺地域の環境にどのように影響を与えるか事前に調査、予測及び評価し、その結果を公表して住民等や行政の意見を聴き、十分な環境保全対策を実施することにより、よりよい事業計画を作り上げていく制度です。

1. 環境影響評価の手続きについて



2. 対象事業の目的

■事業者の名称：大栄環境株式会社

■代表者の氏名：代表取締役 金子 文雄

■主たる事務所の所在地：大阪府和泉市テクノステージ二丁目3番28号

■対象事業の目的

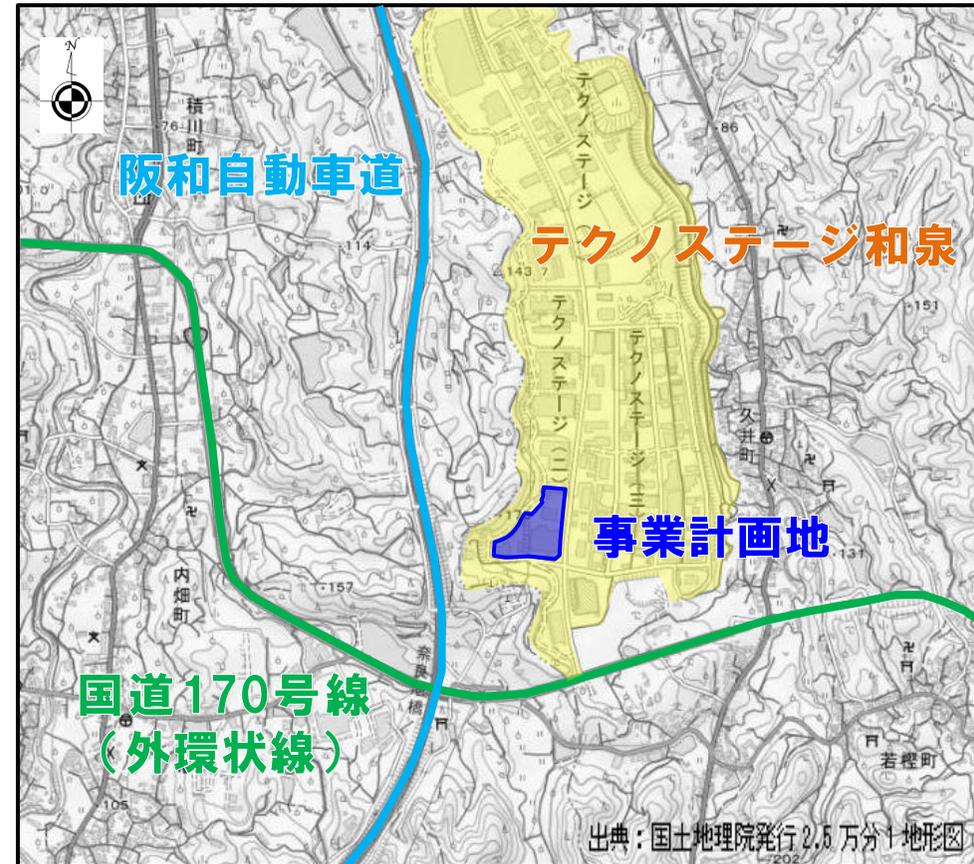
私ども大栄環境株式会社は、大阪府和泉市の「テクノステージ和泉」内において、産業廃棄物処理施設を運営しています。産業廃棄物処理施設は持続可能な社会を維持する上で欠かすことのできない社会インフラであり、近年増加している大規模自然災害により発生する災害廃棄物の処理においても産業廃棄物処理施設の強靱化が求められています。

現在の施設は老朽化が進んでいる状況です。また、維持管理に必要なメーカーからの技術的支援がぜい弱化しており、将来的に施設操業が困難となることが予測されます。当社では更なる「社会インフラの強靱化」を進めるため、現在の施設を解体・撤去し、同敷地内において新規焼却炉を建設する「焼却炉建替え事業(スクラップアンドビルド)」を計画しました。

3. 対象事業の内容

■対象事業の位置

関係地域：和泉市及び岸和田市



3. 対象事業の内容

■施設概要の比較

項目	現在の施設	計画の施設
炉形式	ガス化改質炉(サーモセレクト方式)	焼却炉(ストーカ方式)
処理能力	95t/日×1炉	220t/日×1炉
焼却する 廃棄物の種類	【普通産業廃棄物17品目】 燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、 廃アルカリ、廃プラスチック類、 紙くず、木くず、繊維くず、 動植物性残さ、ゴムくず、金属く ず、ガラスくず、鋳さい、がれき 類、ばいじん、令13号 【特別管理産業廃棄物8品目】 燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、 廃アルカリ、鋳さい、ばいじん、 廃石綿等	【普通産業廃棄物15品目】 燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、 廃アルカリ、廃プラスチック類、 紙くず、木くず、繊維くず、 動植物性残さ、動物系固形不要物、 ゴムくず、金属くず、ガラスくず、 がれき類 【特別管理産業廃棄物5品目】 汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、 感染性産業廃棄物
発電電力	1,500kW	4,810kW

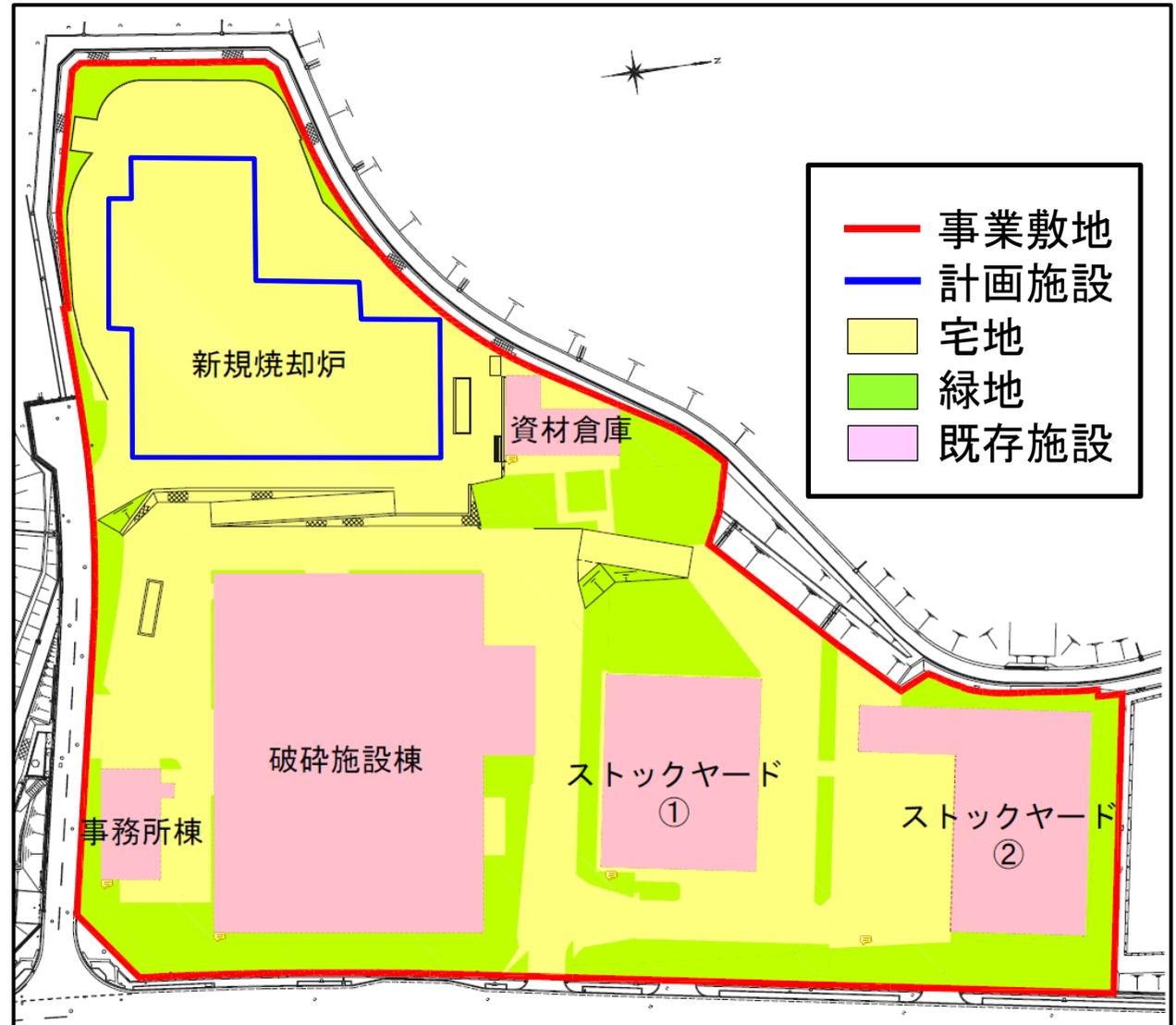
3. 対象事業の内容

■施設概要の比較

項目		現在の施設	計画の施設	法令基準値
運転条件	稼働時間	24時間/日	24時間/日	—
	稼働日数	320日/年	320日/年	—
煙突	高さ	29m	50m	—
排ガス量	湿り	11,181Nm ³ /時	68,970Nm ³ /時	—
	乾き	9,672Nm ³ /時	56,650Nm ³ /時	—
排ガス濃度 (O ₂ 12%換算) (予定協定値)	ばいじん	0.04g/Nm ³ 以下	0.01g/Nm ³ 以下	0.04g/Nm ³ 以下
	窒素酸化物	150ppm以下	50ppm以下	250ppm以下
	硫黄酸化物	103ppm以下	50ppm以下	126ppm以下
	塩化水素	40ppm以下	40ppm以下	430ppm以下
	水銀	30μg/Nm ³ 以下	30μg/Nm ³ 以下	30μg/Nm ³ 以下
	ダイオキシン類	0.01ng-TEQ/Nm ³ 以下	0.1ng-TEQ/Nm ³ 以下	0.1ng-TEQ/Nm ³ 以下

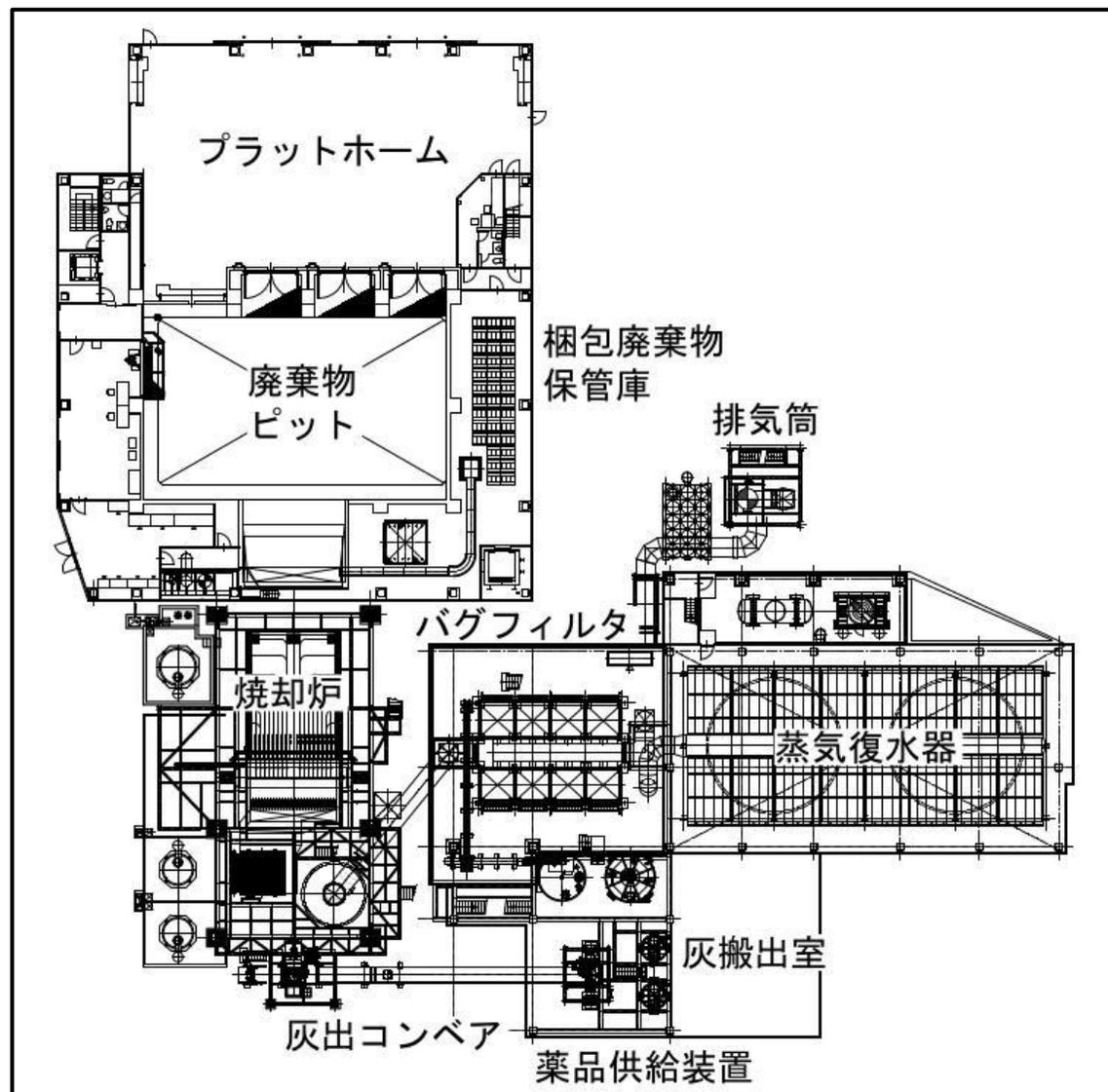
3. 対象事業の内容

■ 事業敷地の平面図



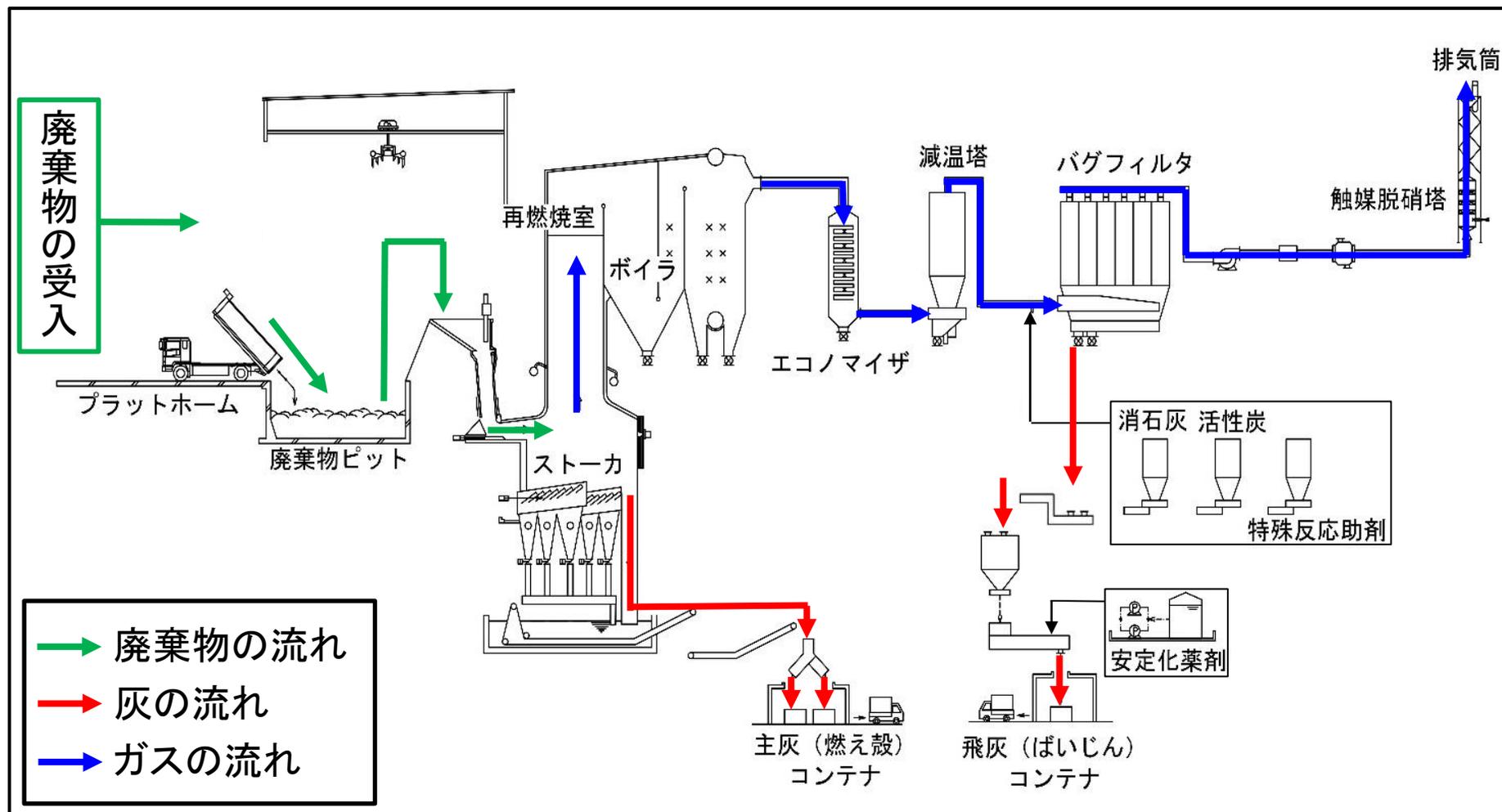
3. 対象事業の内容

■ 計画施設の平面図



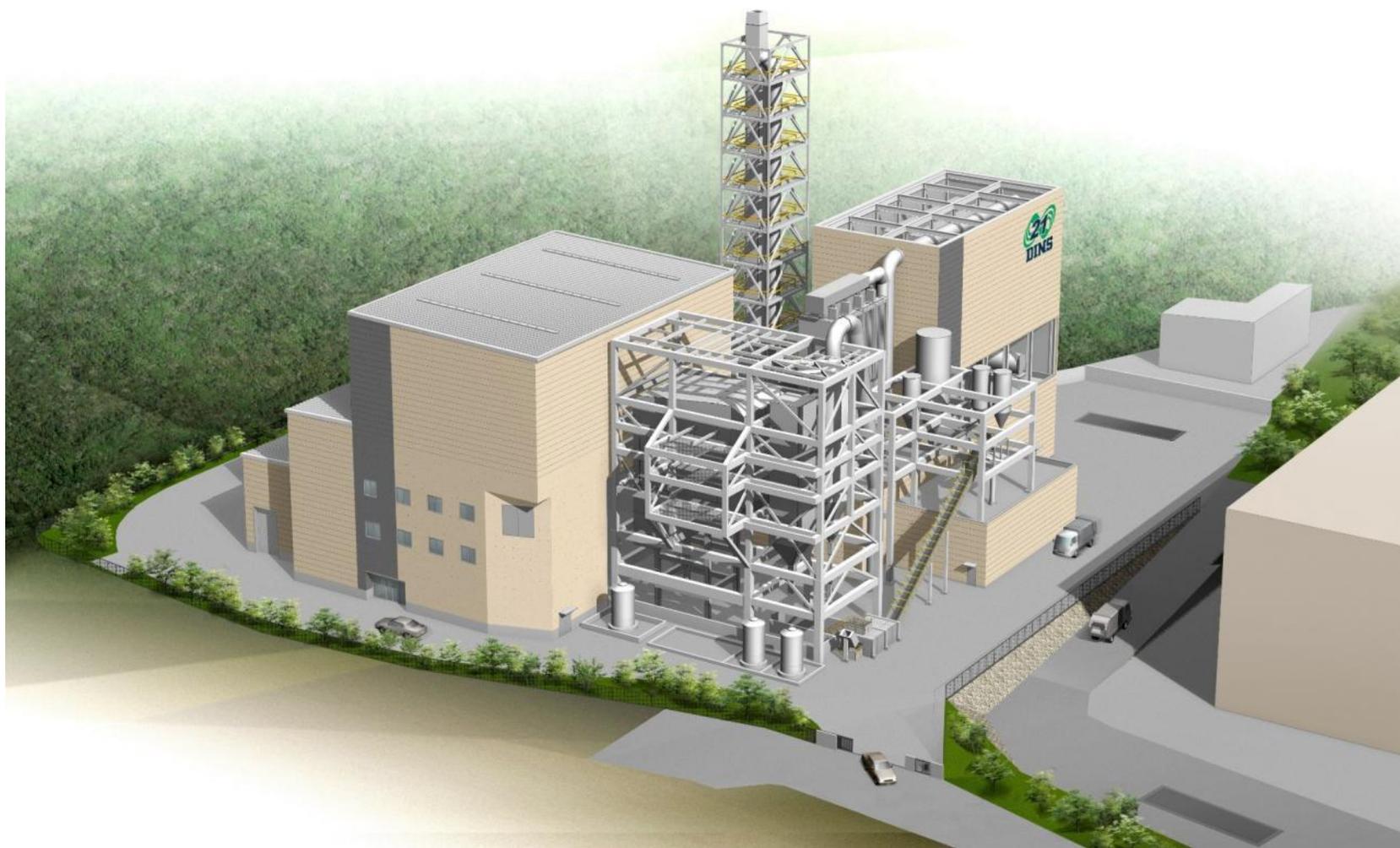
3. 対象事業の内容

■ 計画施設の構造図 (概要)



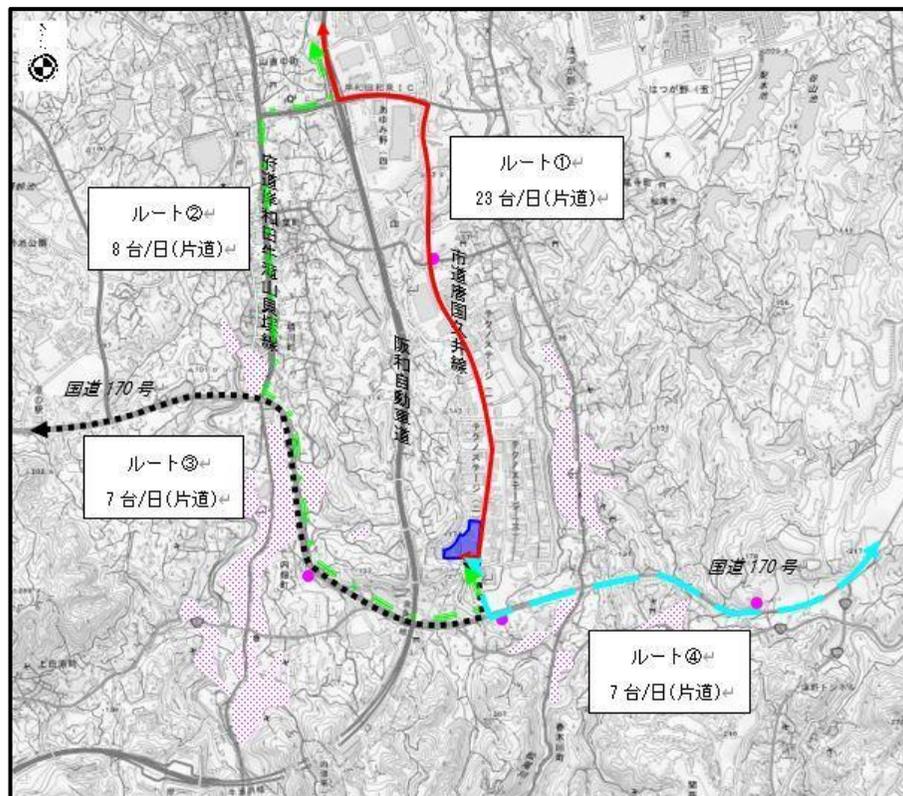
3. 対象事業の内容

■ 計画施設のイメージ図



3. 対象事業の内容

■ 運行計画



出典：国土地理院発行2.5万分1地形図

- : 事業計画地
- : 住居等の保全物件
- : 集落
- : ルート①
- : ルート②
- : ルート③
- : ルート④

	外部を行き来する 車両台数		
	現在	計画	増減
焼却施設 単体	21 台/日	45 台/日	+24 台/日
敷地全体	276 台/日	285 台/日	+9 台/日

3. 対象事業の内容

■ 工事計画

① 解体工事／造成工事に着手

	1年目								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
解体工事	■								
造成工事						■			

工事用車両の通行が最大となる時期の走行台数は「33台程/日」



② 建設工事に着手

	1年目												2年目								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
建設工事	■																				

工事用車両の通行が最大となる時期の走行台数は「60台程/日」

4. 環境影響評価結果について 調査項目

下表の○印の項目について調査・予測・評価を行いました。

環境要素		環境影響要因の内容				
		施設の存在	施設の供用		工事の実施	
大項目	小項目		施設の稼動	車両の走行	施設の建設工事	工事車両の走行
大気質	環境基準 設定項目	二酸化硫黄	○		○	
		浮遊粒子状物質	○	○	○	○
		二酸化窒素	○	○	○	○
		ダイオキシン類	○			
	その他	塩化水素	○			
		水銀	○			
		粉じん			○	
水質・底質	生活環境項目(SS)			○		
騒音	騒音		○	○	○	○
振動	振動		○	○	○	○

4. 環境影響評価結果について 調査項目

環境要素		環境影響要因の内容				
		施設の存在	施設の供用		工事の実施	
大項目	小項目		施設の稼動	車両の走行	施設の建設工事	工事車両の走行
低周波音	低周波音		○			
悪臭	悪臭		○			
土壌汚染	土壌汚染				○	
人と自然との触れ合いの活動の場	人と自然との触れ合いの活動の場			○		○
景観	自然景観	○				
廃棄物・発生土	一般廃棄物		○		○	
	産業廃棄物		○		○	
	発生土				○	
地球環境	温室効果ガス		○	○	○	○
気候変動適応等	地震		○			

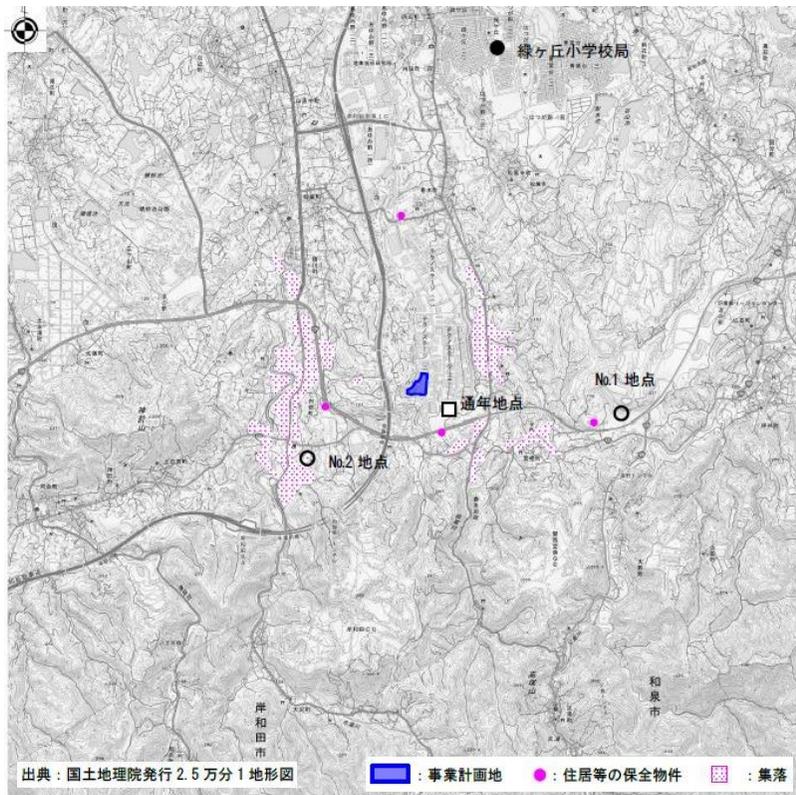
4. 環境影響評価結果について 大気質

■ 調査結果の概要

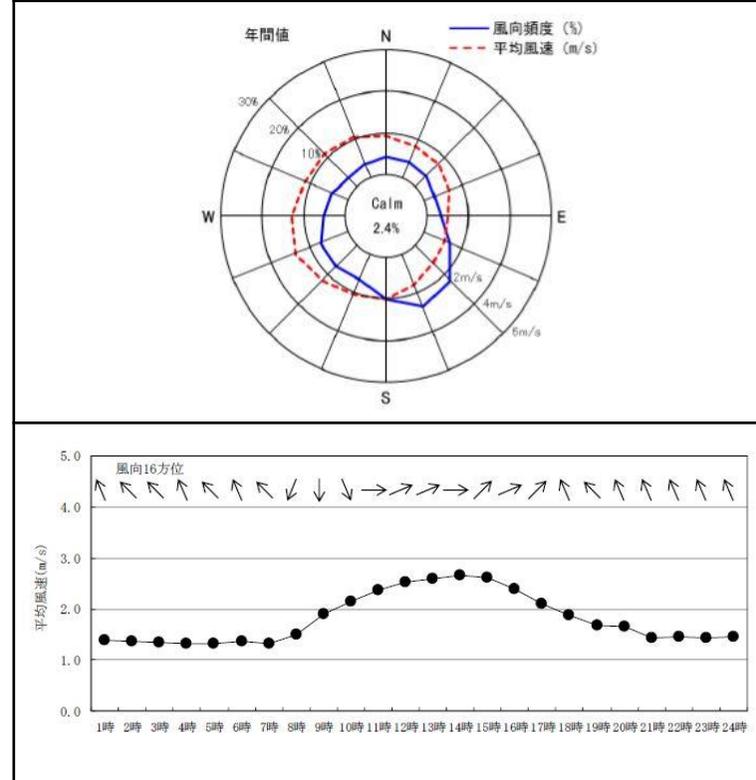
<気象調査>



<大気質調査>



<年間の風向風速調査結果>



<大気質の年平均濃度(調査結果)>

	二酸化硫黄 (ppm)	窒素酸化物 (ppm)	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	塩化水素 (ppm)	水銀 (μg/m ³)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)
No.1地点	0.001	0.005	0.016	0.002	0.0017	0.010
No.2地点	0.001	0.006	0.015	0.002	0.0015	0.008
緑ヶ丘小学校局地点	0.000	0.006	0.012	0.002	0.0016	0.009

4. 環境影響評価結果について 大気質

■ 予測結果の概要(施設の稼働)

<大気質の長期予測結果(年平均濃度)>

調査項目	単位	煙突排ガスの排出による寄与濃度	将来の予測結果	環境基準値等に対して	環境基準値等
二酸化硫黄	ppm	0.00003~0.00010	0.000~0.003 (2%除外値)	○	日平均値の2%除外値が 0.04ppm以下
二酸化窒素	ppm	0.00003~0.00010 (窒素酸化物として)	0.014~0.016 (年間98%値)	○	日平均値の年間98%値が 0.04~0.06ppmのゾーン内 またはそれ以下
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.000005~0.000020	0.030~0.037 (2%除外値)	○	日平均値の2%除外値が 0.10mg/m ³ 以下
塩化水素	ppm	0.00002~0.00008	0.002	○	目標環境濃度値が 0.02ppm以下
水銀	μg/m ³	0.00002~0.00006	0.0015~0.0018	○	年平均濃度が 0.04 μg/m ³ 以下
ダイオキシン類	pg- TEQ/m ³	0.00005~0.00020	0.008~0.010	○	年平均濃度が 0.6pg-TEQ/m ³ 以下

4. 環境影響評価結果について 大気質

■ 予測結果の概要(施設の稼働)

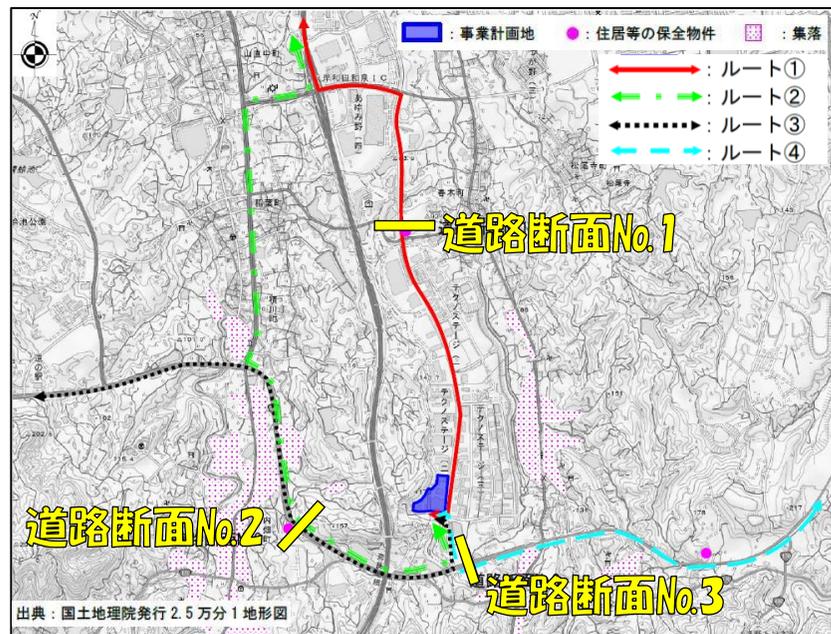
<大気質の短期予測結果(1時間値)>

調査項目	単位	煙突排ガスの排出による寄与濃度	調査結果(最大値)	将来の予測結果	環境基準値等に対して	環境基準値等
二酸化硫黄	ppm	0.002~0.015	0.006	0.008~0.021	○	1時間値が 0.1ppm以下
二酸化窒素	ppm	0.002~0.015	0.035	0.037~0.050	○	1時間値が 0.1~0.2ppm以下
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.0004~0.0031	0.071	0.071~0.074	○	1時間値が 0.20 mg/m ³ 以下
塩化水素	ppm	0.002~0.012	0.007	0.009~0.019	○	目標環境濃度値が 0.02ppm以下

※短期予測は、高濃度気象条件下(①上層逆転出現時、②逆転層崩壊時、③大気安定度不安定時、④煙突によるダウンウォッシュ発生時、⑤建物によるダウンウォッシュ発生時)の予測を行いました。

4. 環境影響評価結果について 大気質

■ 調査結果の概要



< 交通量調査結果 >

(単位: 台/日)

調査地点	項目	自動車			自動二輪
		大型車類	小型車類	計	
道路断面 No.1	平日	3,227	8,725	11,952	560
	休日	894	6,932	7,826	218
道路断面 No.2	平日	2,666	12,411	15,077	303
	休日	370	11,495	11,865	478
道路断面 No.3	平日	3,183	14,803	17,986	357
	休日	478	14,999	15,477	563

■ 予測結果の概要(車両の走行)

< 車両の走行による予測結果 >

調査項目	単位	事業関連車両等の増加による寄与濃度	将来の予測結果	環境基準値に対して	環境基準値
二酸化窒素	ppm	0.00006~0.00010 (窒素酸化物として)	0.022~0.023 (年間98%値)	○	日平均値の年間98%値が 0.04~0.06ppmのゾーン内 またはそれ以下
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.000002~0.000003	0.040 (2%除外値)	○	日平均値の2%除外値が 0.10mg/m ³ 以下

4. 環境影響評価結果について 大気質

■ 予測結果の概要(工事の実施)

<施設の建設工事>

- 現行施設の解体・撤去工事時は、「**廃棄物焼却施設解体作業マニュアル**」等に従い、周辺地域の**環境に影響を生じないように実施**しますので、工事に伴う粉じん(ダイオキシン類)は発生しないと予測しました。
- 造成等の工事時は、粉じんの飛散をもたらす可能性のある風速の年間出現時間頻度は1.5%の頻度であることから、**工事に伴う粉じんの影響は小さい**と予測しました。
- 建設機械等排出ガスの予測結果(二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質)についても、**環境基準値のゾーン内もしくは環境基準値を下回ると**予測しました。

<工事車両の走行>

工事車両の走行について、二酸化窒素、浮遊粒子状物質のいずれも**環境基準値を下回ると**予測しました。

4. 環境影響評価結果について 大気質

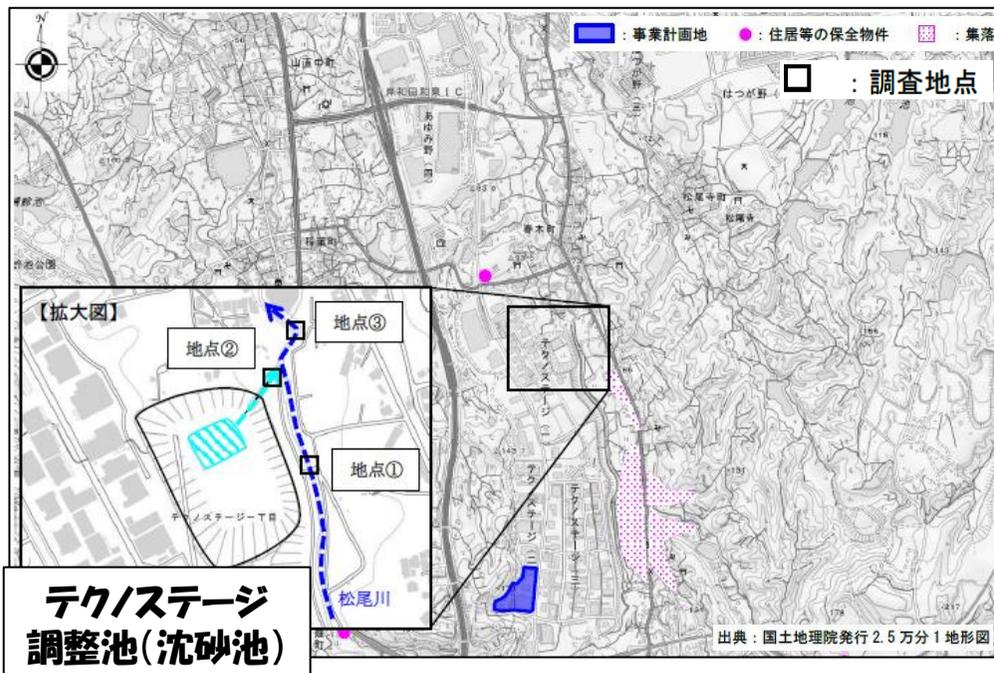
■評価の概要

すべての項目について環境基準値等を下回っていました。また、本事業による大気質への影響をさらに低減するための環境保全対策を講じるため、環境保全目標を満足する結果となります。主な環境保全対策については以下に示します。

- 排ガス中のダイオキシン類対策は、再合成を回避するため、排ガスを急冷できる方式を採用します。また、バグフィルタ入口に活性炭を吹き込み、気体状のダイオキシン類を吸着、除去します。
- 排ガス中の水銀対策は、搬入する廃棄物の性状の把握と管理を徹底し、適正処理を図ります。
- 自動車NO_x・PM法に基づく車種規制に適合する車両を使用するとともに、可能な限り最新規制適合車の利用に努め、持ち込み業者にも同様の内容を要請します。また、車両の更新時には可能な限り電気自動車など低公害車の導入に努めます。
- 解体対象施設のダイオキシン類による汚染状況の有無について事前評価を行い、その結果を踏まえて、適切な管理区域等を決定します。

4. 環境影響評価結果について 水質・底質

■ 調査結果の概要



<降雨時における浮遊物質量の調査結果>

地点	単位	調査結果
地点①(上流側)	mg/L	5~330
地点②(放流口)	mg/L	2~94
地点③(下流側)	mg/L	6~470

■ 予測結果の概要

<工事の実施>

テクノステージ調整池(沈砂池)の放流口における浮遊物質量(SS)の予測結果は、最大値でも**94.71mg/L**であり、参考として「水質汚濁防止法」に基づく**排水基準(200mg/L)**と比較した場合において、**排水基準を下回る結果**と予測しました。

■ 評価の概要

水質汚濁防止法に基づく排水基準を下回る結果と予測しました。また、本事業による水質・底質への影響をさらに低減するための環境保全対策を講じるため、環境保全目標を満足する結果となります。主な環境保全対策については以下に示します。

工事区域に降る雨水は、集水して沈砂槽に滞留させ、pH中和装置等による適切な処理を行った後、雨水排水路に放流します。

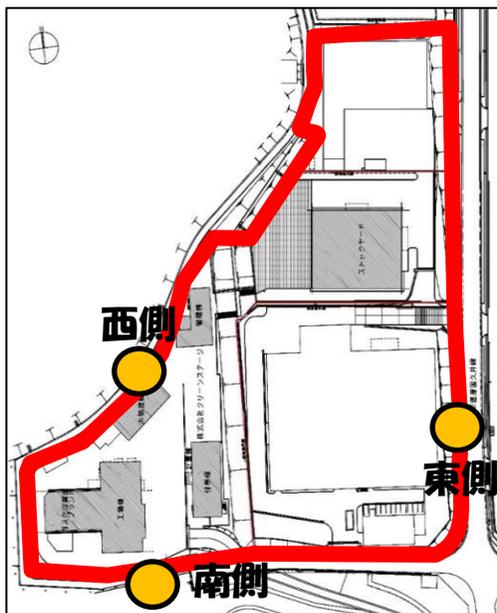
4. 環境影響評価結果について 騒音

■調査及び予測結果の概要

最大値のみを記載しています。

単位:デシベル

＜施設の稼働＞



項目	時間帯	調査結果			予測結果			基準値等	
		現況		基準値等 に対して	現況+将来		基準値等 に対して		
		西、南側	東側		西、南側	東側			
騒音 レベル (L _{A5})	朝	46	45	○	59	48	○	65	50
	昼間	48	52	○	59	53	○	70	55
	夕	44	42	○	59	46	○	65	50
	夜間	41	38	○	59	45	○	60	45

※西、南側は「大阪府生活環境の保全等に関する条例」の規制基準値、東側は「テクノステージ和泉まちづくりガイドライン」で定める基準値と比較しています。

＜施設の建設工事＞

施設の建設工事に伴う騒音予測結果は、建設作業騒音の最大値でも83デシベルであり、規制基準値85デシベルを下回ると予測しました。

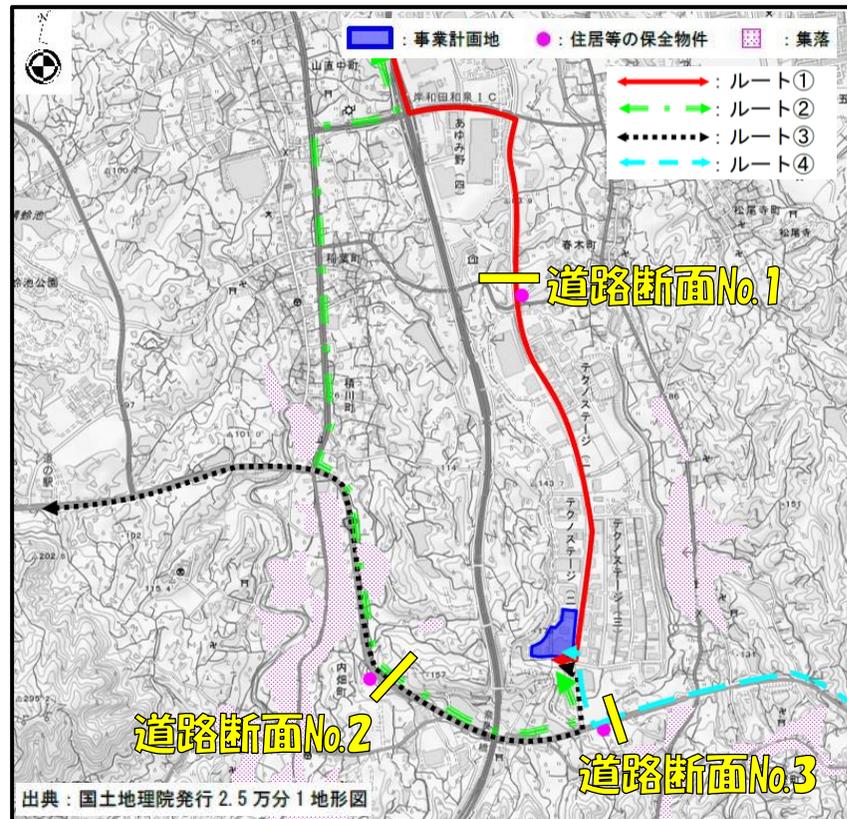
4. 環境影響評価結果について 騒音

■調査及び予測結果の概要

＜車両の走行＞

最大値のみを記載しています。

単位:デシベル



項目	調査地点	調査調査		予測結果		環境基準値	
		現況	環境基準 に対して	現況+ 将来	環境基準 に対して		
事業 関連 車両	騒音 レベル (L_{Aeq})	道路断面 No.1	69	×	69	×	65
		道路断面 No.2	69	○	69	○	70
		道路断面 No.3	69	○	69	○	
工事 関連 車両	騒音 レベル (L_{Aeq})	道路断面 No.1	69	×	69	×	65
		道路断面 No.2	69	○	69	○	70
		道路断面 No.3	69	○	69	○	

道路断面No.1では、環境基準値を上回っていましたが、事業関連車両及び工事用車両の走行による増加はありません。

4. 環境影響評価結果について 騒音

■評価の概要

事業敷地境界において全ての地点で規制基準値を下回っていました。また、車両走行においては2地点で基準値を下回っており、環境基準値が既に上回っている地点については事業による増加はないと予測しました。また、本事業による騒音への影響をさらに低減するための環境保全対策を講じるため、環境保全目標を満足する結果となります。主な環境保全対策については以下に示します。

- 蒸気タービンやブロアやファン等の大きな騒音を発生する機器は、防音対策を施した室内に設置します。
- 自社及び持ち込み業者の廃棄物運搬車両等は、幹線道路を使用し、生活道路の通行はしないとともに、速度制限等の交通規則の遵守、不必要なアイドリングの禁止について今後とも周知・徹底します。
- 工事に当たっては、低騒音型建設機械の使用に努めます。
- 近隣への工事騒音の影響を軽減させるために、防音シート等の設置を行います。

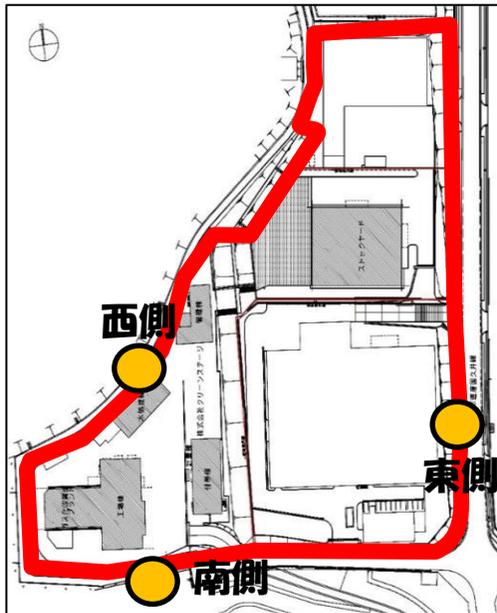
4. 環境影響評価結果について 振動

■調査及び予測結果の概要

最大値のみを記載しています。

<施設の稼働>

単位:デシベル



項目	時間帯	調査結果			予測結果			基準値等	
		現況		基準等に対して	現況+将来		基準等に対して		
		西、南側	東側		西、南側	東側			
振動レベル (L ₁₀)	昼間	25 未満	25 未満	○	57	45	○	70	60
	夜間	25 未満	25 未満	○	57	45	○	65	55

※西、南側は「大阪府生活環境の保全等に関する条例」の規制基準値、東側は「テクノステージ和泉まちづくりガイドライン」で定める基準値と比較しています。

<施設の建設工事>

施設の建設工事に伴う振動予測結果は、建設作業振動の最大値でも**68デシベル**であり、**規制基準値75デシベル**を下回ると予測しました。

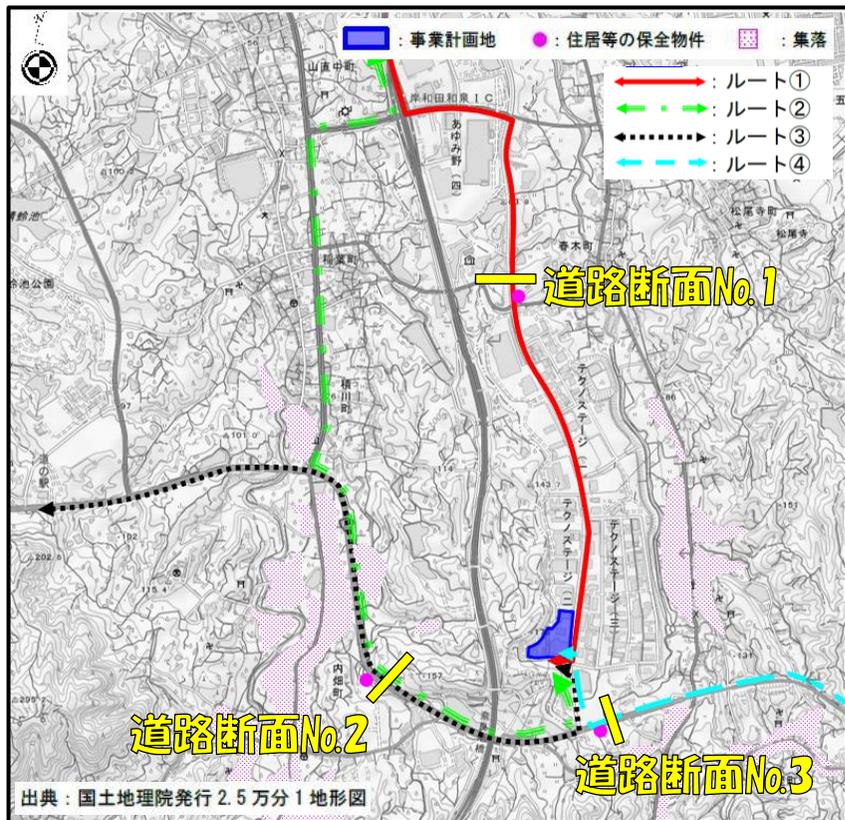
4. 環境影響評価結果について 振動

■調査及び予測結果の概要

＜車両の走行＞

最大値のみを記載しています。

単位：デシベル



	項目	調査地点	調査調査		予測結果		要請限度
			現況	要請限度 に対して	現況+ 将来	要請限度 に対して	
事業 関連 車両	振動 レベル (L ₁₀)	道路断面 No.1	30	○	30	○	70
		道路断面 No.2	30	○	30	○	
		道路断面 No.3	31	○	31	○	
工事 関連 車両		道路断面 No.1	30	○	30	○	
		道路断面 No.2	30	○	30	○	
		道路断面 No.3	31	○	31	○	

4. 環境影響評価結果について 振動

■ 評価の概要

全ての地点にて規制基準値等を下回っていました。また、本事業による振動への影響をさらに低減するための環境保全対策を講じるため、環境保全目標を満足する結果となります。主な環境保全対策については以下に示します。

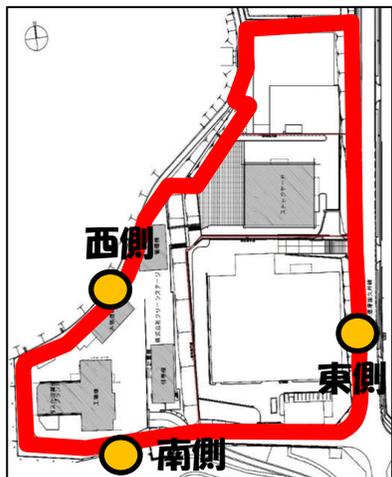
- 蒸気タービンやブロアやファン等の大きな振動を発生する機器は、強固な基礎などの適切な防振対策を施します。
- 燃え殻及びばいじん等、施設から発生する廃棄物の運搬車両は、積載効率の向上等により走行台数抑制に努めます。
- 工事に当たっては、低振動型建設機械の使用に努めます。
- 工事の分散化、平準化を図り、工事機械の集中を避ける計画とします。

4. 環境影響評価結果について 低周波音

■調査及び予測結果の概要

<施設の稼働>

最大値のみを記載しています。



項目	時間帯	調査結果		予測結果		心身に係る苦情に関する参照値
		現況	参照値 に対して	現況+将来	参照値 に対して	
低周波音 レベル (L_{Geq})	昼間	70	○	73	○	92
	夜間	64	○	70	○	

単位:デシベル

※心身に係る苦情に関する参照値は、「低周波音問題対応の手引書」(環境省)に基づく、低周波音問題対応のための「評価指針」を示します。

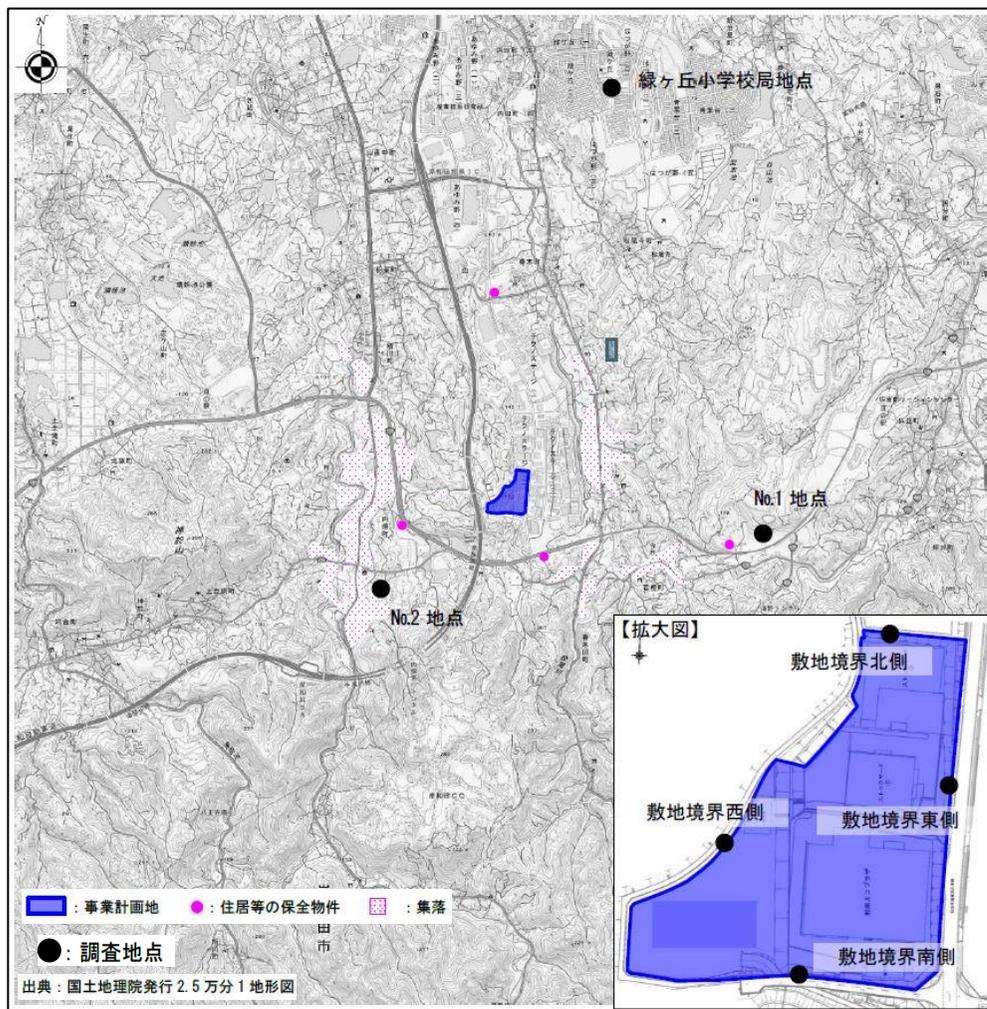
■評価の概要

全ての地点にて参照値を下回っていました。また、本事業による低周波音への影響をさらに低減するための環境保全対策を講じるため、環境保全目標を満足する結果となります。主な環境保全対策については以下に示します。

大きな低周波音が発生する可能性のある機器は、低周波音を抑えた機器の採用や共振防止に留意する等の対策を行います。

4. 環境影響評価結果について 悪臭

■調査結果の概要



<臭気の調査結果>

対象項目	全ての地点
アンモニア	0.1未満
メチルメルカプタン	0.0002未満
硫化水素	0.002未満
硫化メチル	0.001未満
二硫化メチル	0.0009未満
トリメチルアミン	0.0005未満
アセトアルデヒド	0.005未満
プロピオンアルデヒド	0.005未満
ノルマルブチルアルデヒド	0.0009未満
イソブチルアルデヒド	0.002未満
ノルマルバレールアルデヒド	0.0009未満
イソバレールアルデヒド	0.0003未満
イソブタノール	0.09未満
酢酸エチル	0.3未満
メチルイソブチルケトン	0.1未満
トルエン	1未満
スチレン	0.04未満
キシレン	0.1未満
プロピオン酸	0.003未満
ノルマル酪酸	0.0001未満
ノルマル吉草酸	0.00009未満
イソ吉草酸	0.0001未満
臭気指数	10未満

4. 環境影響評価結果について 悪臭

悪臭の予測・評価結果

■ 予測結果の概要

< 施設の稼働 >

- 施設の稼働に伴う悪臭の漏洩については、適切な悪臭防止対策を実施することにより、将来においても**悪臭の規制基準値を下回ると**予測しました。
- **煙突からの悪臭の排出**については、煙突風下側の**臭気指数は最大でも10未満で基準値を下回ると**予測しました。

■ 評価の概要

全ての地点にて規制基準値を下回っており、臭気指数は10未満になると予測しました。また、本事業による悪臭への影響をさらに低減するための環境保全対策を講じるため、環境保全目標を満足する結果となります。主な環境保全対策については以下に示します。

- 廃棄物を保管する廃棄物ピット及びストックヤードは屋内に設置し、建屋外に臭気が漏洩することを防止します。
- 廃棄物ピット内の臭気をストーカ炉の燃焼用空気として押込送風機により吸込むことで、廃棄物ピット内を負圧にし、臭気の漏洩を防ぐとともに炉内の高温により臭気を熱分解します。

4. 環境影響評価結果について 汚染土壌

土壌汚染の予測・評価結果

■予測結果の概要

<工事の実施>

事業計画地では、土壌の調査を行うことにより実態を把握し、管理有害物質及びダイオキシン類による土壌汚染が判明した場合、「土壌汚染対策法」等にいたがって、適切な対応を講じる計画であり、工事に伴う土壌の移動による影響はないと予測しました。

■評価の概要

土壌の調査を行うことにより実態を把握し、適切な対応を講じることで影響はないと予測しました。また、本事業による土壌汚染への影響をさらに低減するための環境保全対策を講じるため、環境保全目標を満足する結果となります。主な環境保全対策については以下に示します。

- 土壌汚染が判明した場合は、土壌汚染対策法に基づき周辺への環境影響がない範囲で現場内で再利用もしくは当社グループ会社の汚染土壌処理施設にて浄化处理、もしくは最終処分場にて埋立処分を行います。
- 施設建設工事において、土壌汚染が判明した場所での杭打ち・ピット設置等に伴い当該土壌が地下水に接する場合は、土壌汚染対策法に基づき必要に応じて地下水モニタリング等を行います。

4. 環境影響評価結果について 人と自然と触れ合いの活動の場

人と自然と触れ合いの活動の場の予測・評価結果

■ 予測結果の概要

<施設の供用>

事業関連車両の走行について、市道唐国久井線における交通量増加の割合については、**平日0.5%、休日0.9%**となり、**変化の程度は小さい**と予測しました。

<工事の実施>

工事用車両の走行について、市道唐国久井線における交通量増加の割合については**1.3%**となり、**変化の程度は小さい**と予測しました。

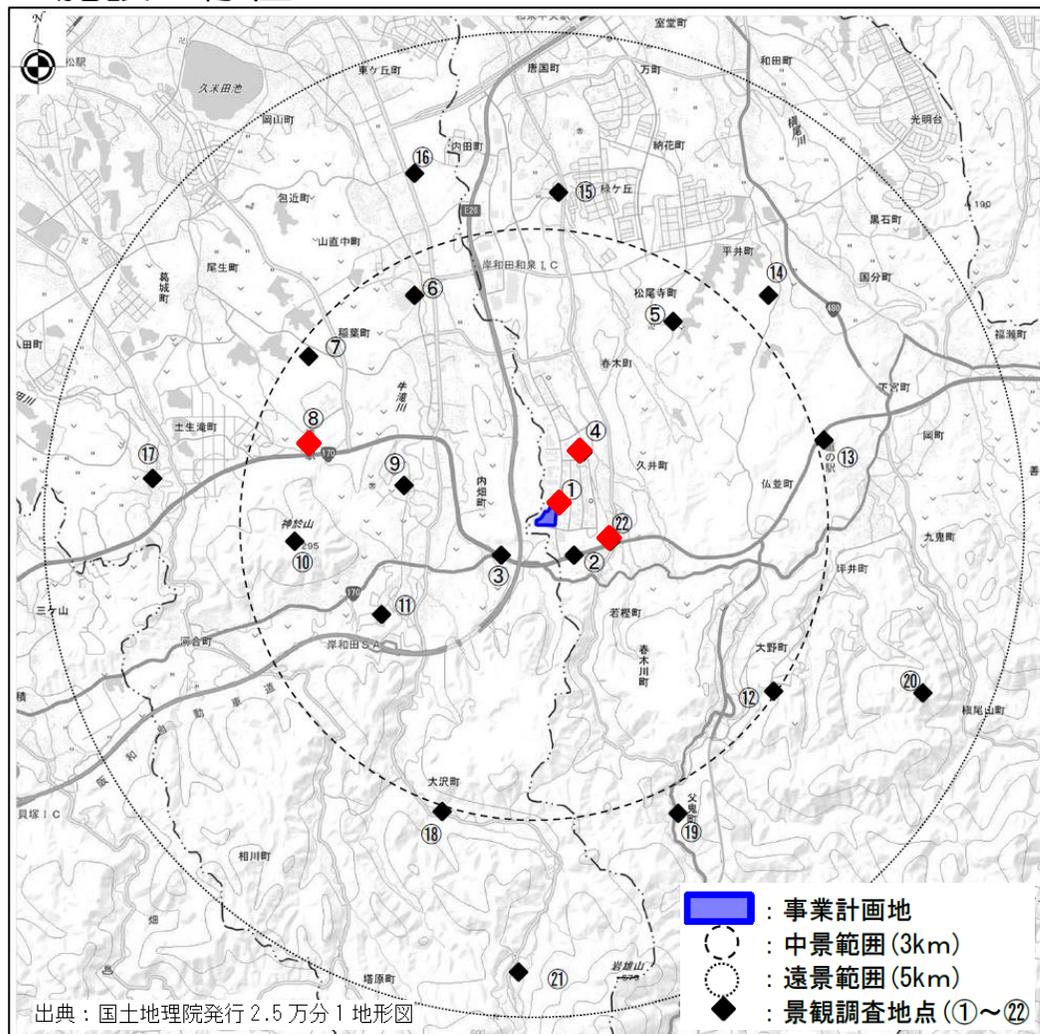
■ 評価の概要

本事業による交通量増加の割合について、変化の程度は小さいと予測しました。また、人と自然と触れ合いの活動の場への影響をさらに低減するための環境保全対策を講じるため、環境保全目標を満足する結果となります。主な環境保全対策については以下に示します。

自社及び持ち込み業者の廃棄物運搬車両等は、幹線道路を使用し、生活道路の通行はしないとともに、速度制限等の交通規則の遵守、不必要なアイドリングの禁止については、今後とも周知・徹底します。

4. 環境影響評価結果について 景観

■ 調査結果の概要 ＜施設の存在＞



地点番号	地点名	視認性
1	近景1(市道唐国久井線)	○
2	近景2(国道170号)	×
3	近景3(国道170号)	×
4	コスモ中央公園	○
5	松尾寺公園	×
6	井坂酒造場	×
7	蜻蛉池公園	×
8	道の駅愛彩ランド	○
9	山直神社	×
10	神於山展望台	×
11	岸和田観光農園	×
12	いずみふれあいの農の里	×
13	道の駅いずみ山愛の里	×
14	和泉リサイクル環境公園	×
15	和泉市久保惣記念美術館	×
16	包近桃選果場	×
17	奥家の棕	×
18	大沢神社の杉	×
19	近畿自然歩道	×
20	槇尾山展望台	×
21	牛滝温泉	×
22	松尾川大橋(国道170号)	○

4. 環境影響評価結果について 景観

■ 予測結果の概要

和泉市側 ①近景1

現在の施設



計画の施設



4. 環境影響評価結果について 景観

■ 予測結果の概要

和泉市側 ④コスモ中央公園

現在の施設



計画の施設



4. 環境影響評価結果について 景観

■ 予測結果の概要

岸和田市側 ⑧道の駅愛彩ランド

現在の施設



計画の施設



4. 環境影響評価結果について 景観

■ 予測結果の概要

和泉市側 ②松尾川大橋（国道170号線）

現在の施設



計画の施設



4. 環境影響評価結果について 景観

■評価の概要

現在の施設と比べると視認範囲が若干広くなる地点もありますが、色彩を周辺と調和するように配慮することで違和感を軽減する等により、その影響は小さいと予測しました。また、景観への影響をさらに低減するための環境保全対策を講じるため、環境保全目標を満足する結果となります。主な環境保全対策については以下に示します。

「テクノステージ和泉まちづくりガイドライン」にならい、施設規模の拡大にも違和感のないよう建物高さを現行施設と同等の30m以下とし、既存施設を含めた周辺の建物と同系色であるベージュ色にすることで統一感を図ります。また、建物にアクセントカラーを入れるデザインや、植栽(高木等)の設置により圧迫感の緩和等を図る計画とし、煙突については、空や西側に広がる山林とミスマッチせず目立ちにくいシルバー系とします。これらにより背景や地域及び沿道周辺の景観と調和がとれるよう計画します。

4. 環境影響評価結果について 廃棄物・発生土

廃棄物・発生土の予測・評価結果

■ 予測結果の概要

<施設の供用>

施設の稼働・維持管理に伴い発生する廃棄物の発生量については、燃え殻等9項目で予測しましたが、可能な限り発生抑制に努め、発生する廃棄物については、リユース、リサイクルを徹底し、減量化を図ります。

<工事の実施>

- 廃棄物の発生量は、がれき類等10項目で予測しましたが、建設資材の廃棄物を分別・選別し、再利用に適さない廃棄物については、可能な限り減量化を図ることで廃棄物の再利用及び発生抑制を最大限に努めます。
- 発生土の発生量は、現行施設解体工事及び新規焼却炉建設工事で予測しましたが、すべての工事期間を通して可能な限り土量バランスを図り、施設規模・土地改変面積の最小化や発生抑制に努める事や、工事の実施による廃棄物の影響をさらに低減させるための環境保全対策を講じる計画としています。

4. 環境影響評価結果について 廃棄物・発生土

■評価の概要

廃棄物・発生土について、可能な限り発生抑制に努め、発生してしまう廃棄物等についてはリサイクル等を徹底し、減量化を図るとともに、適切な環境保全対策を講じるため、環境保全目標を満足する結果となります。主な環境保全対策については以下に示します。

- 受入する廃棄物の精査、特に不燃物の混入防止等を徹底することで燃え殻等の発生量の抑制に努めます。
- 供用時に発生する燃え殻及びばいじんは、当社グループの施設にて適正に処分します。
- 工事に伴い発生する建設廃棄物は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に従い、適正な分別・再利用・再資源化に努めるとともに、これらが困難な廃棄物については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従い、適正な処理・処分を行うように工事施工業者に対する指導を徹底します。
- 掘削工事に伴う発生土は、汚染されていないならば可能な限り現場内で再利用もしくは当社の最終処分場にて覆土材等の利活用、汚染されていれば当社グループ会社の汚染土壌処理施設にて浄化处理、もしくは最終処分場にて埋立処分を行うこととします。

4. 環境影響評価結果について 地球環境

温室効果ガスの予測・評価結果

■ 予測結果の概要

< 施設の供用 >

施設の供用による温室効果ガスの排出量は、将来の増加量が約19,500t-CO₂/年と予測され、大阪府全体の温室効果ガスの年間排出量の約0.04%の排出量と予測しました。

< 工事の実施 >

工事の実施に伴う温室効果ガスの排出量は、約5,680t-CO₂/工事期間と予測され、大阪府全体の年間排出量の約0.01%の排出量と予測しました。

■ 評価の概要

上記に示す排出量と予測しました。また、温室効果ガスへの影響をさらに低減するための環境保全対策を講じるため、環境保全目標を満足する結果となります。主な環境保全対策については以下に示します。

- ・ 熱エネルギーを回収して発電を行う計画であり、発電電気は新規焼却炉及び既存施設等で有効利用します。また、余剰分については非化石エネルギー源として電力会社に売電、もしくは脱炭素社会に寄与する取り組み等で活用する予定です。
- ・ 車両の更新時には、可能な限り、電気自動車など低公害車の導入に努めます。

4. 環境影響評価結果について 気候変動適応等

地震の予測・評価結果

■ 予測結果の概要

<施設の供用>

化学物質の貯留タンクは屋内に設置し、漏洩対策として流出防止堤の設置を計画しているため、地震に起因する化学物質の漏洩の発生のリスクは無いと予測しました。

■ 評価の概要

地震に起因する化学物質の漏洩の発生リスクはないと予測しました。また、適切な環境保全対策を講じるため、環境保全目標を満足する結果となります。主な環境保全対策については以下に示します。

- ・危険物等の保管は、貯蔵タンクには流出防止堤を設けるなど、万一の流出時においても外部への流出防止を計画し、安全性の確保に努めます。
- ・本事業は、耐震性能の確保や施設全体の処理設備ごとに分棟、機器に依拠して独立基礎、非常用発電機の設置の対策を講じる計画であり、地震に起因する化学物質の漏えいによる環境リスクの低減に努めます。

4. 環境影響評価結果について 事後調査の方針

本事業の実施が周辺の環境に及ぼす影響について調査・予測・評価を行った結果、環境保全措置を確実に実施することで、環境に著しく影響することはないと考えられますが、事後調査を実施します。

影響要因	項目	調査項目
施設の供用	大気質	事業計画地周辺における二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、窒素酸化物、ダイオキシン類 塩化水素、水銀 煙突排ガスの硫黄酸化物、浮遊粒子状物質、窒素酸化物、ダイオキシン類、塩化水素、 水銀
	騒音・振動・低周波音	敷地境界の騒音・振動・低周波音 道路交通の騒音・振動
	事業関連車両の交通量	大気質・騒音・振動に係る事業関連車両の交通量
	悪臭	敷地境界付近の悪臭(臭気指数、特定悪臭22物質)
	廃棄物	事業計画地内の廃棄物(種類、発生量、再生利用量、減量化量、最終処分量)
	地球環境	事業計画地内の地球環境(温室効果ガス)
工事の実施	騒音・振動	建設作業の騒音・振動
	工事関連車両の交通量	大気質・騒音・振動に係る工事関連車両の交通量
	廃棄物・発生土	廃棄物・発生土(種類、発生量、再生利用量、減量化量、最終処分量)

5. 準備書の縦覧・意見書の提出について

■ 縦覧期間

令和5年11月29日～令和5年12月28日まで

■ 縦覧場所

※大阪府HPにて電子縦覧あり

縦覧場所		縦覧時間	備考
和泉市	環境保全課	09:00～17:15	土曜日、日曜日、を除く
	TRCシティプラザ図書館	09:30～21:00 (土曜日、日曜日は 9:00～20:00まで)	毎週金曜日は 休館
	TRC北部リージョンセンター図書室	09:30～20:00	
	TRC南部リージョンセンター図書室	10:00～18:00	毎週月曜日は 休館
岸和田市	環境保全課	09:00～17:30	土曜日、日曜日、を除く
	岸和田市広報広聴課内情報公開コーナー	09:00～17:30	
大阪府	環境農林水産部環境管理室環境保全課	09:00～18:00	
	大阪府府政情報センター	09:00～17:15	
大栄環境	和泉リサイクルセンター	09:00～17:30	

5. 準備書の縦覧・意見書の提出について

■意見書の提出

準備書についての環境の保全の見地からの意見書を、次のとおり大阪府知事及び事業者である大栄環境株式会社に対し提出することができます。

○受付期間：令和5年11月29日
～令和6年1月11日まで
(午後5時30分必着)

○提出方法：提出先へ郵送又は持参により提出してください。

準備書に関する意見書	
項目	記入欄
氏名 (法人その他の団体にあつては、法人・団体名、代表者の氏名)	
住所 (法人その他の団体にあつては、主たる事務所の所在地)	〒
対象事業の名称	大栄環境株式会社和泉エネルギープラザ整備事業
準備書についての環境の保全の見地からの意見 (日本語により意見の理由を含めて記載してください。)	

ご清聴ありがとうございました